

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 19 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

日 時： 2020 年 8 月 6 日(木) 13:30~15:00

場 所： Webex 会議

配布資料

RK6SC 19-1	第 17 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 19-2-1	人事について
RK6SC 19-2-2	外的事象 PRA 委員名簿 2020/8/6 版
RK6SC 19-3-1	断層変位 PRA 標準:202X: 標準委員会投票結果
RK6SC 19-3-2	断層変位 PRA 標準:202X: 標準委員会コメントへの対応
RK6SC 19-3-3	断層変位 PRA 標準:202X: 編集上の修正について
RK6SC 19-3-4-1	断層変位 PRA 標準:202X: 新旧比較 (まえがき)
RK6SC 19-3-4-2	断層変位 PRA 標準:202X: 新旧比較 (簡条 1-4)
RK6SC 19-3-4-3	断層変位 PRA 標準:202X: 新旧比較 (簡条 6)
RK6SC 19-3-4-4	断層変位 PRA 標準:202X: 新旧比較 (簡条 7 本文 附属書 Y_AA_AB_AD)
RK6SC 19-3-4-5	断層変位 PRA 標準:202X: 新旧比較 (簡条 8)
RK6SC 19-3-4-6	断層変位 PRA 標準:202X: 新旧比較 (解説)
RK6SC 19-4-1	地震 PRA 標準:202X: 中間報告の概要
RK6SC 19-4-2	地震 PRA 標準:202X: 中間報告文案 (規定のみ)
RK6SC 19-4-3	地震 PRA 標準:2015 の誤記チェック結果について
RK6SC 19-参考 1	第 80 回標準委員会議事録 (案)
RK6SC 19-参考 2	用語 (SSC) について

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 断層変位 PRA 標準について
5. 地震 PRA:202x 改定・2015 の誤記チェックについて
6. 次回日程、その他

出席委員(18名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、井上委員候補(東芝 ES)、内山委員(大成建設)、織田委員(日立 GE)、倉沢委員(中部電)、栗田委員(東電設計)、佐々木委員(関電)、田中委員候補(MHI)、中島委員(電中研)、西田委員(JAEA)、橋本委員(電中研)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、山野委員(JAEA)、吉田委員(大林組)、綿引委員(東電 HD)

欠席委員(1名)： 砂川委員候補(北海道電)

出席常時参加者(1名)： 細川(候補)(関電)

欠席常時参加者(5名)： 菊池(四国電力)、倉本(NEL)、高橋(鹿島)、成宮(JANSI)、根岸(原電エンジニアリング)

説明者(1名)： 酒井(電中研:断層変位 PRA 作業会)

議事内容

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 19 名中 18 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされた。出席者が一部修正され承認された。

(3) 人事について

新委員については及び井上委員（東芝エネルギーシステム）、田中委員（三菱重工業株式会社）の承認が行われた。

砂川委員候補（北海道電力株式会社）は次回となった。

委員の退任については佐藤委員（東芝エネルギーシステム）、黒岩委員（MHI NS エンジニアリング株式会社）の確認が行われた。

また、地震 PRA 作業会、津波 PRA 作業会の委員の承認及び退任の確認と常時参加者の承認及び退任の確認が行われた。断層変位 PRA 作業会については追加で報告されることとなった。

最新の委員名簿については、題名が作業会となっているため、分科会に修正が行われた。他にも修正がある場合には幹事に後で連絡することとした。

(4) 断層変位 PRA 標準について

断層変位 PRA 作業会の酒井幹事より、断層変位 PRA 標準の標準委員会の投票による可決と、コメントへの対応について説明があり、分科会での議論の反映を作業会で取りまとめ、専門部会に報告していくこととした。

- ・ 編集上の修正について、と資料のタイトルにするのはやめることを提案する。内容として層のように判断するという事は良いが、タイトルの時点で編集上の修正を前提で書いてしまうと誤解を受ける可能性があるため。
- ・ 統一の図番について、標準作成ガイドラインが作られているので、これに基づいて修正を行うとする記載にするべきでは。

- ・ 4.2.2 や 7.1、7.3 等の「専門家判断を活用して」という追記修正箇所について、表現の統一を行ったという説明をした方が編集上の修正として理解しやすい。
- ・ 各委員の意見に対応した箇所を類別してまとめ、編集上の修正であることが判断できるように整理した資料の追加作成を検討する。
- ・ 中井委員コメントの「炉心損傷頻度への影響の大きい順」→「プラントへの影響大きい順」については、階層イベントツリーの例が出されていることもあるので、議論を踏まえた判断の説明記載を検討することとする。

また、本文資料中の細かい誤記修正も行われ、専門部会に報告することが了承された。

(5)地震 PRA:202x の改定・2015 の誤記チェックについて

成宮常時参加者(地震 PRA 作業会幹事)より、地震 PRA 標準:202x の改定の間報報告と規定内容について説明が行われた。また 2015 年版の誤記チェックによる附属書の式の修正について報告があった。様式にはこだわらず、意見募集を目的とした中間報告について 8 月中程度で意見を募ることとした。

以下のような議論があった。

- ・ 用語の定義について、可能な範囲であいまいさを減らしていく必要が今後の議論で行われるべきではないか。
- ・ 非常に重要な指摘である。ほかにも例えば、「考慮する」などの What to do としてそういう内容になるかということを確認にしていく努力も必要である。
- ・ 階層化については各箇条の一般事項に What to do を書くようにはしているので、修正すべき提案、あるべき作り方なども含んでご意見が頂けるとありがたい。
- ・ 成宮常時参加者、桐本幹事、糸井主査宛でご意見を送ることとした。

(6) 次会日程 その他

- ・ 糸井主査より、資料 RK6SC19-3-参考 2 を用いて、外的事象関連の標準において SSC という用語についての英語の Structure と日本語の場合は構造物と構築物の取り扱いが分かれる場合があるので、これらの誤解がなくなるための共通認識を作りたい旨の提案があった。今後、地震 PRA 作業会などで議論することとした。
- ・ 次回分科会は 10/30 の 13:30～ Webex 開催で調整

以上